

# 中部防災ニュース 平成31年4月号

発行

静岡県中部地域局

電話 (054) 644-9104

メール chubu-kiki@pref.shizuoka.lg.jp

## ～ ごあいさつ ～

日頃から、中部防災ニュースをお読みいただき、ありがとうございます。  
 この度、静岡県中部地域局長として赴任しました塚本です。  
 中部地域局は、地域の魅力の維持・活性化や災害に強い人・企業・街づくりを大切に、県中部地域の5市2町とともに、地域振興と危機管理体制の強化を一体的に取り組んでいます。  
 この中部防災ニュースは、防災に関する情報の提供を通して、地域の自助・共助の力をサポートしてまいります。引き続き、よろしくお願い申し上げます。



中部地域局長 塚本 秀綱

## あなたの職場のBCP（事業継続計画）は？

地震・台風・豪雨・津波などの災害だけでなく、停電・火事・インフルエンザ・サイバー攻撃など、様々なリスクに備えて策定するBCP。4月から新しいメンバーを迎えた職場が多いと思いますが、新年度を迎えた今、まずは職場の仲間でBCPの共通理解を図り、いざという時の連絡方法や役割、優先業務等を確認しておきましょう。



### 《事業継続に必要な経営資源》を確認しましょう。

#### 災害時は、人材一人ひとりの重要性が高くなります。

#### 人材

重要業務の社内代役や、従業員とその家族との安否確認の方法や取引先との連絡方法を確認しましょう。

- リーダー不在時の代役
- 従業員や家族との安否確認のルール
- 取引先との連絡方法



#### 資金

#### 復旧・再開までには、多くの時間と資金が必要です。

自社の資金力の確認をしましょう。BCP策定で県信用保証協会の融資を予約できる制度もあります。

- 自社の資金で復興しなければならない日数の目安
- 資金の調達方法



#### 材料

#### サプライチェーンを寸断させないようにしましょう。

代替先の確保や緊急時の委託生産、相互支援協定等の対策を確認しておきましょう。

- 仕入れ先、取引先が被災した場合の代替先
- 緊急時の委託生産先

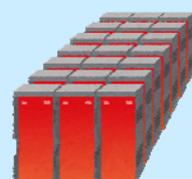


#### 情報

#### 一度失うと再現できない「データ」を守ることが大切です。

データのバックアップや保管方法を確認しましょう。  
 自家発電設備や蓄電設備の使い方も確認しましょう。

- データのバックアップ方法
- バックアップデータの保管先
- 機器の稼働に必要な発電設備



# 他社のBCPから学ぼう！～被災時のBCPの効果～



昨年度は、7月豪雨や台風により企業活動が大きな影響を受けました。

中部地域局では、実際に水害や停電などの被害を受けた企業を訪問し、BCPを踏まえた対応事例などの取材を行いました。今後、BCP事例集を作成し、事業所のBCP策定の促進に向け活用していく予定ですが、今月号では、そのうち2つの事例を紹介します。

## 事例1 自家発電への切り替え訓練や手順書の整備が役立った！ 沢根スプリング株式会社（製造業）

所在地	静岡県浜松市	従業員数	53名
事業内容	各種ばね及び関連製品の製造販売等	被災した災害	台風24号(平成30年9月)

### ○台風24号の影響で停電！

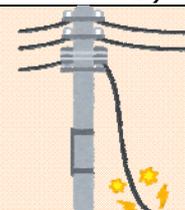
・台風24号により大規模な停電が発生し、その復電まで2日間近くを要することになった。同社も停電し、工場の操業を停止せざるを得なかった。

### ○BCPと訓練が効果を発揮！

・一部の注文品や定番の在庫品番については、顧客から注文を受けられる環境があれば出荷等ができるため、同社BCPでは、停電時は自家発電機を必要最小限のPCや通信設備に割り当てるようにし、インターネットを含めた外部との連絡手段の確保を優先させている。  
・停電を想定して、自家発電した電力を必要機器に切り替える訓練を実施していたところ、台風で大規模停電が発生した。  
設備の稼働はできなかったものの、通信設備の電力確保など最低限の対応ができた。

### ○このような対応も…

・停電により工場が操業を停止していることや、業務対応・連絡手段についての告知、復電による作業再開等の情報を、随時、発信し続けた。この情報発信の判断は、社長の指示によるものではなく、総務担当者の判断で実施された。



## 事例2 災害を想定した在庫管理が迅速な応急対応につながった！ 小熊建設株式会社（建設業）

所在地	東京都世田谷区	従業員数	13名
事業内容	建築一式請負工事、リフォーム工事等	被災した災害	台風24号(平成30年9月)

### ○台風24号の影響で建物被害が多数発生！

・住宅の屋根の一部が飛んだり、窓ガラスが割れるなどの被害があり、当時は世田谷区の住宅相談（輪番制）の当番でもあったので、同社にも、区民から、被害状況の確認や修繕依頼などの相談が多数寄せられた。  
・施主様の窓ガラスが割れる被害が多く発生し、修繕等の対応に追われた。

### ○BCPが効果を発揮！

・同社BCPでは、このような状況に備え、ベニヤ板やダンボールを多めに在庫しており、応急処置として割れた窓ガラスの代わりにダンボールやベニヤ板を貼り付けた。まずは風除け等の機能を復旧することにより、お客様の要望にその日中に対応することができた。  
・ガラスは発注後、入荷までに2～3日かかるので、災害時には完全な回復はすぐにはできないが、早急の機能回復が求められる中、迅速に一次対応することができ、お客様にも満足してもらうことができた。

### ○今後の課題としては…

・発災当時は、優先事項や対応のレベル等に関して社内でせめぎ合いがあった。また、下請け業者の取り合いも発生した。社内での優先順位付けや職人の都合の調整等、事前に整理しておく必要があると実感した。

